

ひとを育てる活動

病院実習に入った臨床検査技師を目指す奨学生ザイラ

8月初め、ザイラの母親でもあるPIHS(パササンバオ総合ヘルスサービス)代表のナプサさんから、高額な実習経費に関する私たちの追加支援について感謝のメールがとどきました。

「今、タグム病院の実習中で、9月以降はダバオの南フィリピンメディカルセンターに移り、12月まで実習継続の予定」と今後のスケジュールも知らせてきました。

なお、次ページで報告のように、ナプサさんの助産所の巡回診療に参加し、血液検査を手伝うことも技術実習の機会となっています。

住民組合TBA経由支援「あしなが奨学生」近況

ともに家庭の事情でカレッジを中退したアルマとジナツフェの2名は、時を経て「教師になる!」という初志を貫くために20代後半で学業の場に戻ってきました。そして8月には無事最終学年4年に進級し卒業論文に取り掛かっています。ブラクール出身のマノボやチボリ民族のカレッジ生支援のため始まった元FOT(少数民族里親の会)会員による「あしなが奨学金」。ブラクール支援終了後もビラーンを含む先住民族の高等教育を支えてくださった皆様、長い間のご協力ありがとうございます。無事卒業の報告ができるように、TBA責任者のボニファシオとともに見守っていきたいと思います。

先住民族学校で8/20、2023年度の授業が始まりました

教師3名で幼稚園1、2年50名、小学1年10名を担当



父母からの授業料で賄う教師の給与は月平均5,000ペソです。レイクセブを含む第12行政区域の最低賃金以下ですが、裏庭での自家用野菜栽培でやりくりし、辺境の教育を支えています。

待望のテレビ学習が始まりました!



セブ湖畔のレストランから寄贈のテレビ。私たちの電線延伸費約5万円の支援でテレビ学習が始まり、給食と同様、児童の登校意欲向上にも役立つと期待しているようです。

CMIPと協働の教育支援 — 奨学生・元奨学生情報 —

地元行政での活躍に期待の元奨学生たち

10月末の村長・村議選挙に6名が挑戦します

ボロール村で住民組合TBAを主宰し、市契約スタッフとして、医療などの公的支援をビラーンの村人につなげる役割を担っているボニファシオから、元奨学生による立候補の情報が届きました。

ボロール村はダンディ、アルキカン村ではアーリーンが村議として立候補し、現ボロールサロ村議のスヌーリアは村長に、ジュニアワタは同村村議にそれぞれ立候補したということです。また、ボロール以外にも辺境にビラーン民族の村が多く、その文化や生活向上に理解を示すコ罗纳ダルのオジェナ市長からも、「もっと多くのビラーン人が地域の政治を担ってほしい」と励まされているということでした。すでに30-40代になった元カレッジ奨学生それぞれが、今回の地方選挙に立候補したという情報には心強く思いました。

また、過去28年間にHANDS奨学金で学んだ奨学生が一堂に会する「ハンズ・スカラー同窓会」の企画がCMIP代表ジェフティ神父により進められているという情報も届きました。次号では、行政、教育、医療ほか各分野で活躍する元奨学生現況を感謝とともに報告できたらと思います。

国家試験準備中の医大生ジェニー

ビラーン民族初の医師誕生に期待

前号でインターン中とお知らせの医大生ジェニーについて、国家試験に向けて頑張っていますという写真報告が届きました。元CMIP代表エドイン神父の助言で教育学部からダバオ医大に転学した経緯から、その学生生活は8年を超える長期に渡るものとなりました。ハイスクール時代からずっと奨学金で支えていただいた会員・平賀貴久子さんにも嬉しい報告ができるように、また、ビラーン民族初の医師誕生を待つ村人のためにも頑張ってもらいたいと思います。



法人解散予定後も学業継続のHANDS奨学生は12名

この8月、コロナで勉強が遅れていた2022年度も終了し、私たちHANDS支援奨学生は4名がハイスクールを、3名がカレッジを卒業しました。一方、本2023年度末に予定の当法人解散後も学業継続予定の奨学生は、ハイスクール生8名、カレッジ生3名と分かりました。支援奨学金年額はカレッジが3万ペソ(約8万円)ハイスクールは6,000ペソ(約1万6千円)です。これら学業途上の奨学生については、それぞれ在籍する学校卒業まで、任意団体等の形で支えられたらと考えています。